

令和3年度 安曇野市 水道事業会計 予算概要

水道事業予算概要

1 業務量 (予算書 2ページ)

業務の予定量	令和3年度	令和2年度	増減	増減率
給水戸数(戸)	39,200	40,100	△ 900	△ 2.2%
年間総給水量(千m <sup>3</sup> )	9,400	9,600	△ 200	△ 2.1%
一日平均給水量(m <sup>3</sup> )	25,753	26,301	△ 548	△ 2.1%

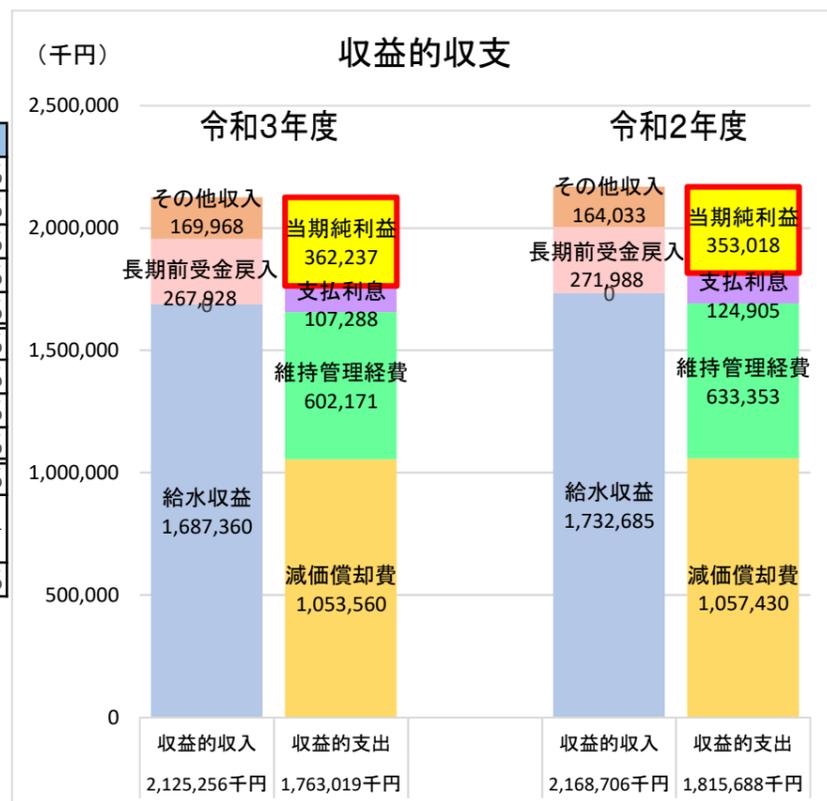
人口減少や節水型社会の進展に伴い給水人口と給水量は減少傾向にあるため、給水戸数の予定業務量は39,200戸として、年間総給水量は940万m<sup>3</sup>を見込みます。

2 収益的収支(予定損益計算書) (予算書 2ページ、4ページ、16ページ、24~31ページ)

水道水を作り、みなさまへお届けするための収支状況です。  
水道水がどのくらい売れて、その水道水を供給するまでにどのくらいの費用がかかっているのかを表します。

(千円) ※消費税抜き

収益的収支	令和3年度	令和2年度	増減	増減率
営業収益	1,855,711	1,894,646	△ 38,935	△ 2.1%
うち給水収益	1,687,360	1,732,685	△ 45,325	△ 2.6%
営業外収益	269,545	274,060	△ 4,515	△ 1.6%
うち長期前受金戻入	267,928	271,988	△ 4,060	△ 1.5%
収益計①	2,125,256	2,168,706	△ 43,450	△ 2.0%
営業費用	1,649,175	1,685,085	△ 35,910	△ 2.1%
うち減価償却費	1,053,560	1,057,430	△ 3,870	△ 0.4%
営業外費用	113,844	130,603	△ 16,759	△ 12.8%
費用計②	1,763,019	1,815,688	△ 52,669	△ 2.9%
経常損益①-②	362,237	353,018	9,219	2.6%
特別損益 (特別利益-特別損失)	0	0	0	-
純損益(当期純利益)	362,237	353,018	9,219	2.6%



収益は21億2,525万6千円で、主に給水収益の減少のため、4,345万円の減額を見込みます。

費用は17億6,301万9千円で、動力費や支払利息が減少となり、合わせて水源等施設老朽化診断業務が完了したことから、5,266万9千円の減額を見込みます。

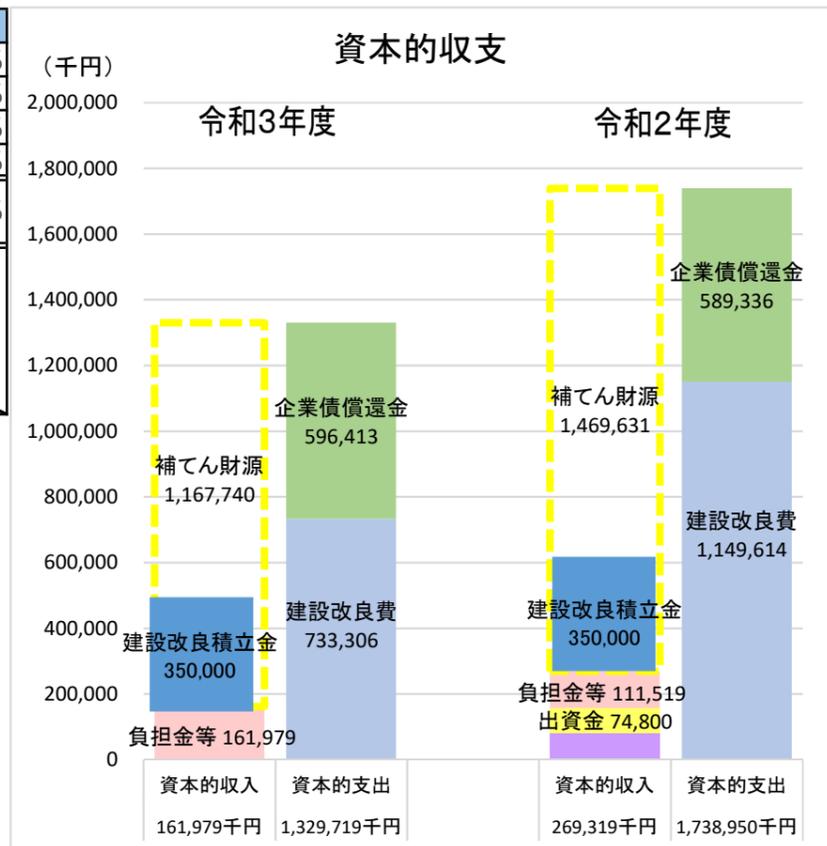
収益は減少となりましたが、費用は更に減少となったため純損益は921万9千円増加し、3億6,223万7千円の黒字を見込みます。

3 資本的収支 (予算書 2ページ、5ページ、32~35ページ)

水道施設の整備を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

資本的収支	令和3年度	令和2年度	増減	増減率
資本的収入(a)	161,979	269,319	△ 107,340	△ 39.9%
うち一般会計出資金	0	74,800	△ 74,800	△ 100.0%
資本的支出(b)	1,329,719	1,738,950	△ 409,231	△ 23.5%
うち企業債償還金	596,413	589,336	7,077	1.2%
資本的収支不足額 (a) - (b)	△ 1,167,740	△ 1,469,631	301,891	△ 20.5%
上記補てん財源	消費税資本的収支調整額	51,744	94,232	△ 301,891
	損益勘定留保資金(※1)	765,996	1,025,399	
	建設改良積立金	350,000	350,000	



令和3年度は、主要管路整備配水管布設替工事を重点施策として実施しますが、前年度で豊科・明科地域整備事業が終了したため、建設改良費は減少し、資本的収入は1億6,197万9千円で、資本的支出は13億2,971万9千円を見込みます。

資本的収支不足額11億6,774万円は、過年度分損益勘定留保資金7億6,599万6千円、建設改良積立金3億5,000万円などで補てんします。

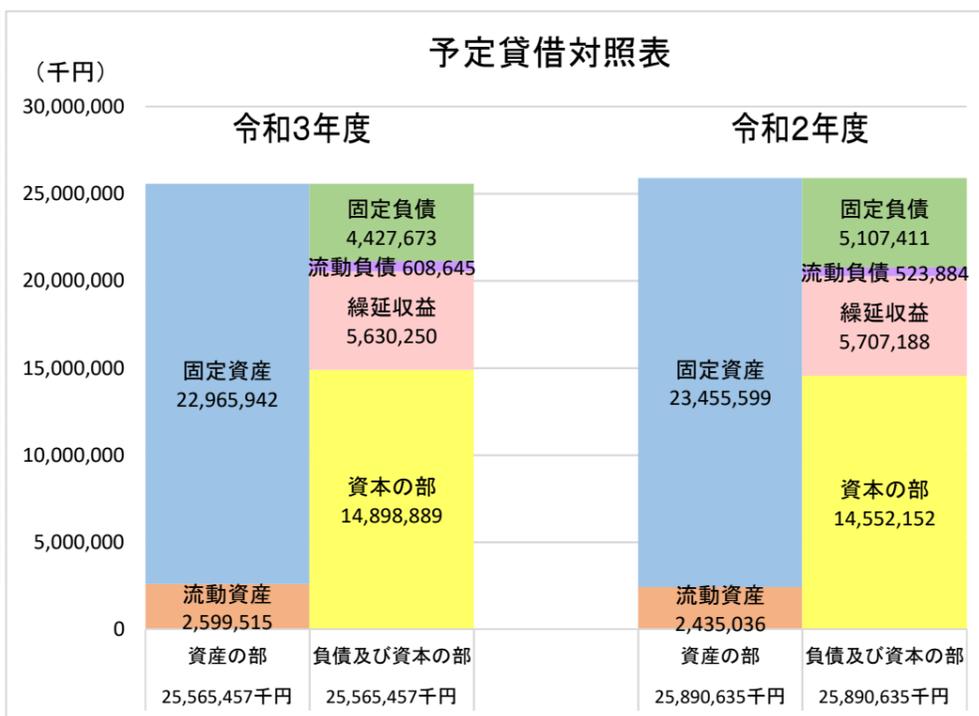
(※1) 損益勘定留保資金  
施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金

4 予定貸借対照表 (予算書 18~19ページ)

財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。  
(千円)

	令和3年度	令和2年度	増減
資産	25,565,457	25,890,635	△ 325,178
固定資産	22,965,942	23,455,599	△ 489,657
流動資産	2,599,515	2,435,036	164,479
うち現金	2,560,951	2,395,333	165,618
負債	10,666,568	11,338,483	△ 671,915
固定負債	4,427,673	5,107,411	△ 679,738
うち企業債	4,427,673	5,107,411	△ 679,738
流動負債	608,645	523,884	84,761
うち企業債	597,553	511,908	85,645
繰延収益	5,630,250	5,707,188	△ 76,938
資本	14,898,889	14,552,152	346,737
資本金	12,598,396	12,257,896	340,500
剰余金	2,300,493	2,294,256	6,237
資本剰余金	193,990	193,990	0
利益剰余金	2,106,503	2,100,266	6,237
負債+資本 計	25,565,457	25,890,635	△ 325,178

固定資産残高は豊科・明科地域整備事業が終了したため減少し、資産の部が3億2,517万8千円の減額となる見込みです。また、負債の部では企業債の償還により、企業債残高は5億2,522万6千円となり、5億9,641万3千円減少する見込みです。

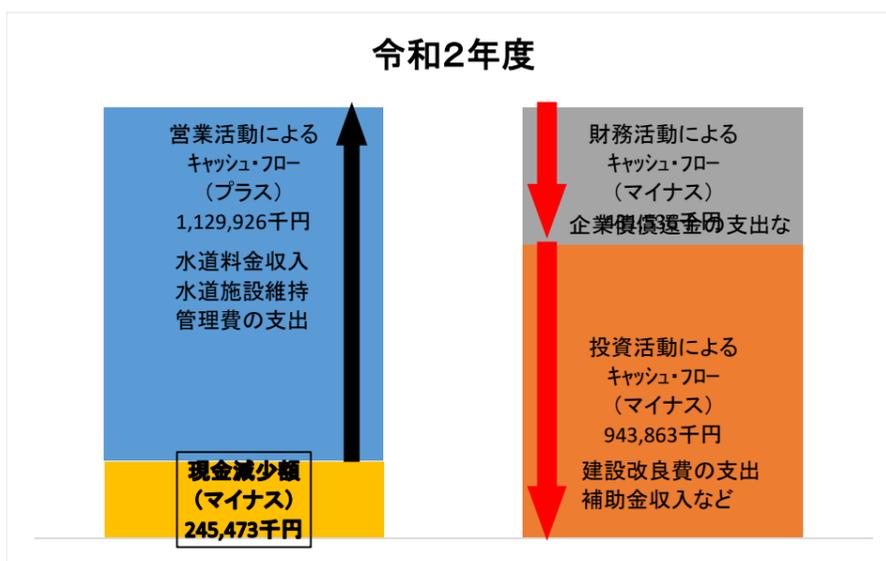
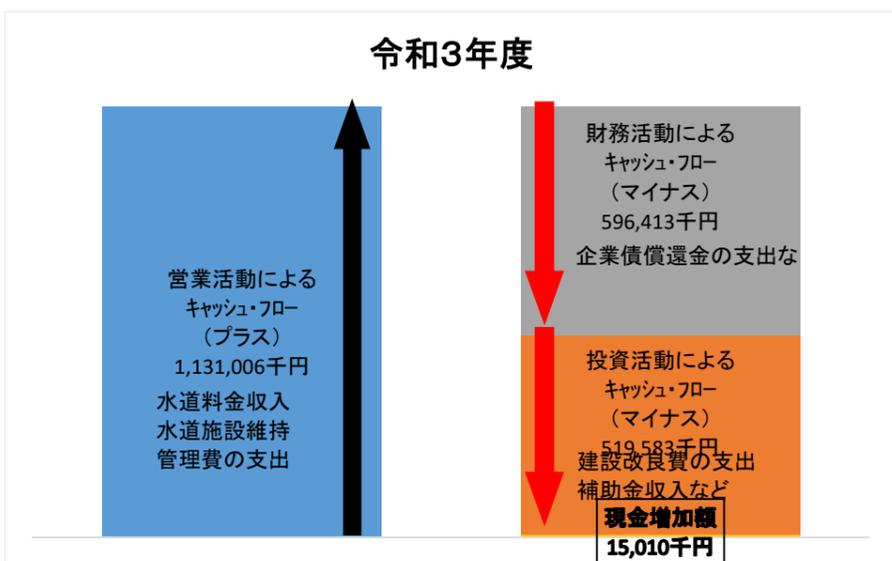


5 予定キャッシュ・フロー計算書 (予算書 6ページ)

1年間の現金収入や現金支出を「営業活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。営業CFでは、主たる営業活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。投資CFでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常は、マイナスとなります。財務CFでは、資金調達や企業債償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合にマイナス、借り入れた場合にはプラスとなります。  
(千円)

	令和3年度	令和2年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,131,006	1,129,926	1,080
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 519,583	△ 943,863	424,280
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 596,413	△ 431,536	△ 164,877
現金増減額	15,010	△ 245,473	260,483
現金期首残高	2,545,941	2,640,806	△ 94,865
現金期末残高	2,560,951	2,395,333	165,618

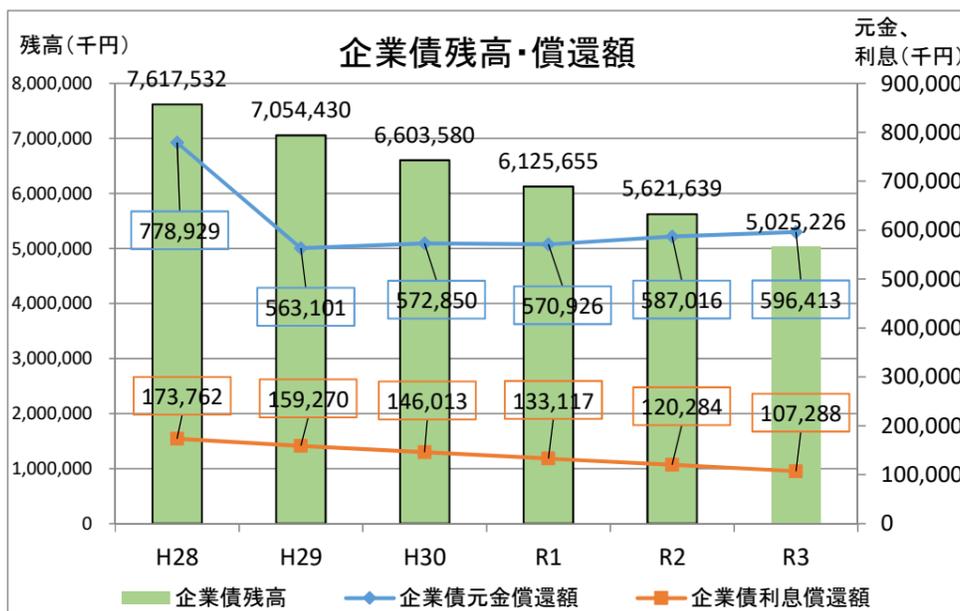
営業活動による現金収入は11億3,100万6千円で、順調な経営状況を見込みます。投資活動による現金支出は5億1,958万3千円で、主要管路整備導・配水管布設替工事等の建設改良工事費を支出します。財務活動による現金支出は5億9,641万3千円で、企業債の償還金を支出します。現金の期末残高は、25億6,095万1千円となる見込みです。



6 企業債

	令和3年度	令和2年度	増減
借入額	0	83,000	△ 83,000
企業債元金償還額	596,413	587,016	9,397
企業債利息償還額	107,288	124,905	△ 17,617
企業債年度末残高	5,025,226	5,621,639	△ 596,413

令和3年度は、5億9,641万3千円の元金償還を予定しており、年度末の企業債残高は、5億2,522万6千円となる見込みです。



## 令和3年度 安曇野市 下水道事業会計 予算概要

### 下水道事業予算概要

#### 1 業務量 (予算書 38ページ)

業務の予定量	令和3年度	令和2年度	増減	増減率
排水戸数(戸)	31,500	31,000	500	1.6%
年間汚水量(千m <sup>3</sup> )	8,500	8,300	200	2.4%
一日平均汚水量(m <sup>3</sup> )	23,288	22,739	549	2.4%

接続率の向上により排水戸数は増加傾向にあるため、排水戸数の予定業務量は31,500戸として、年間汚水量は850万m<sup>3</sup>を見込みます。

#### 2 収益的収支(予定損益計算書) (予算書 38ページ、40ページ、52ページ、60~69ページ)

使われた汚水をきれいにして川に流すまでの収支状況です。  
下水道に流された汚水を処理する費用がどのくらいかを表します。

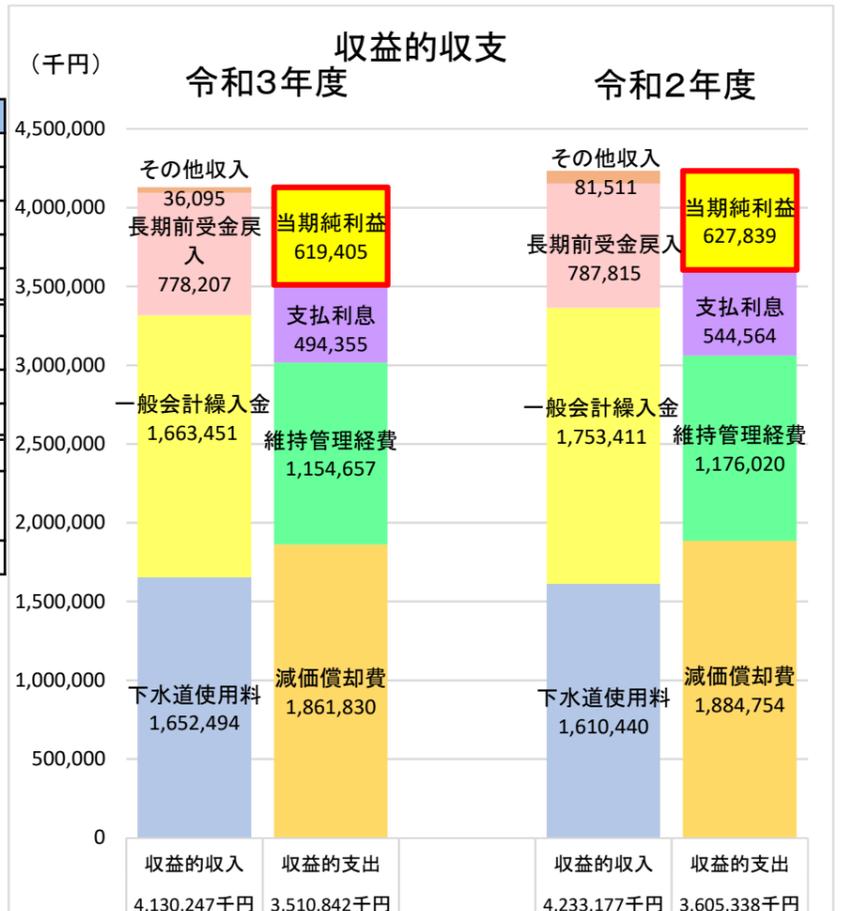
(千円) ※消費税抜き

収益的収支	令和3年度	令和2年度	増減	増減率
営業収益	1,679,769	1,643,497	36,272	2.2%
うち下水道使用料	1,652,494	1,610,440	42,054	2.6%
営業外収益	2,450,478	2,589,680	△139,202	△5.4%
うち一般会計負担金	1,663,451	1,753,411	△89,960	△5.1%
収益計①	4,130,247	4,233,177	△102,930	△2.4%
営業費用	3,014,949	3,055,441	△40,492	△1.3%
うち減価償却費	1,861,830	1,884,754	△22,924	△1.2%
営業外費用	495,893	549,897	△54,004	△9.8%
費用計②	3,510,842	3,605,338	△94,496	△2.6%
経常損益①-②	619,405	627,839	△8,434	△1.3%
特別損益 (特別利益-特別損失)	0	0	0	-
純損益(当期純利益)	619,405	627,839	△8,434	△1.3%

収益は41億3,024万7千円で、水洗化率の増加に伴い下水道使用料は4,205万4千円の増収を見込みますが、一般会計からの負担金が下水道使用料の増収や費用においては、犀川安曇野流域下水道維持管理負担金が2,337万8千円減額などになることから8,996万円減少となり、収益の総額は1億293万円の減額を見込みます。

費用は35億1,084万2千円で、農集排財産処分報告書作成業務委託や機能診断調査業務委託などが増加しますが、減価償却費及び企業債支払利息の減少によって、9,449万6千円の減額を見込みます。

純損益は843万4千円減少し、6億1,940万5千円の黒字を見込みます。



#### 3 資本的収支 (予算書 38ページ、41ページ、70~73ページ)

下水道施設の整備を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

資本的収支	令和3年度	令和2年度	増減	増減率
資本的収入(a)	882,004	777,699	104,305	13.4%
うち資本費平準化債	400,000	362,100	37,900	10.5%
資本的支出(b)	2,663,684	2,532,549	131,135	5.2%
うち企業債償還金	2,452,736	2,392,367	60,369	2.5%
資本的収支不足額 (a) - (b)	△1,781,680	△1,754,850	△26,830	1.5%
上記補てん財源				
消費税資本的収支調整額	1,732	0		
損益勘定留保資金(※1)	1,154,148	1,144,950		
減債積立金	625,800	609,900		

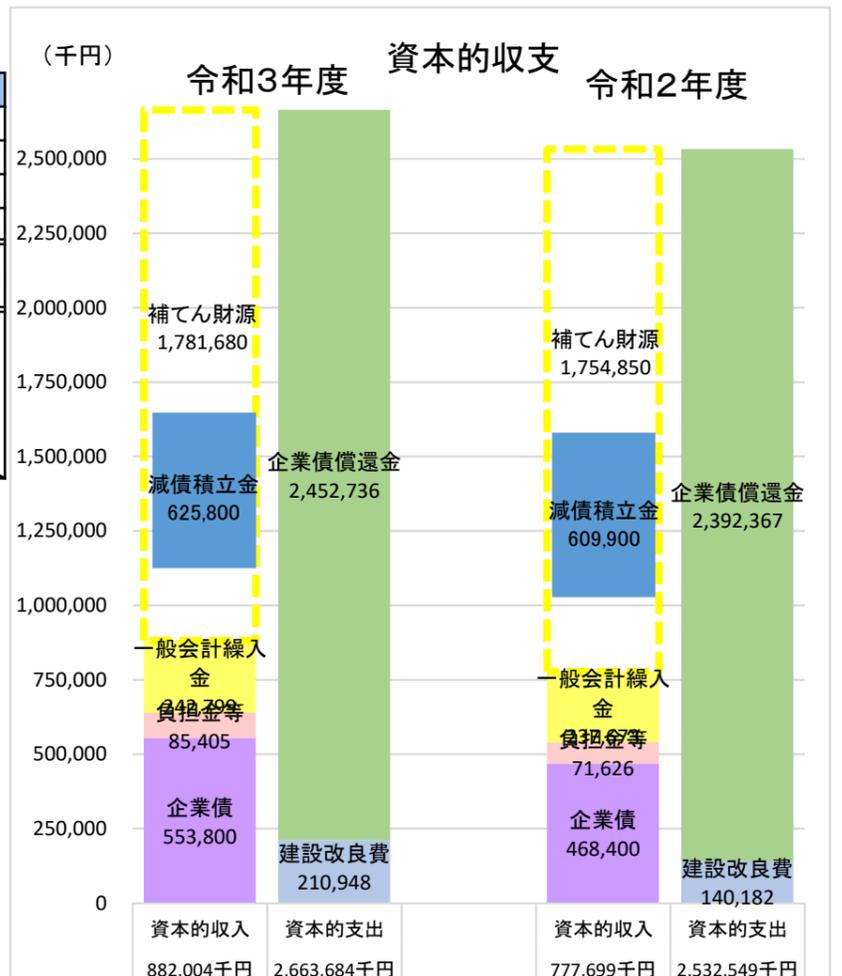
資本的収入は8億8,200万4千円で、受益者負担金の減少を見込みますが、企業債の借り入れや国庫補助金の増加により、1億430万5千円の増額を見込みます。

資本的支出は26億6,368万4千円で、建設改良費や企業債償還金の増加により、1億3,113万5千円の増額を見込みます。

資本的収支不足額17億8,168万円は、損益勘定留保資金11億5,414万8千円、減債積立金6億2,580万円などで補てんします。

(※1) 損益勘定留保資金

施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



#### (参考) 一般会計繰入金収入額の比較

(千円)

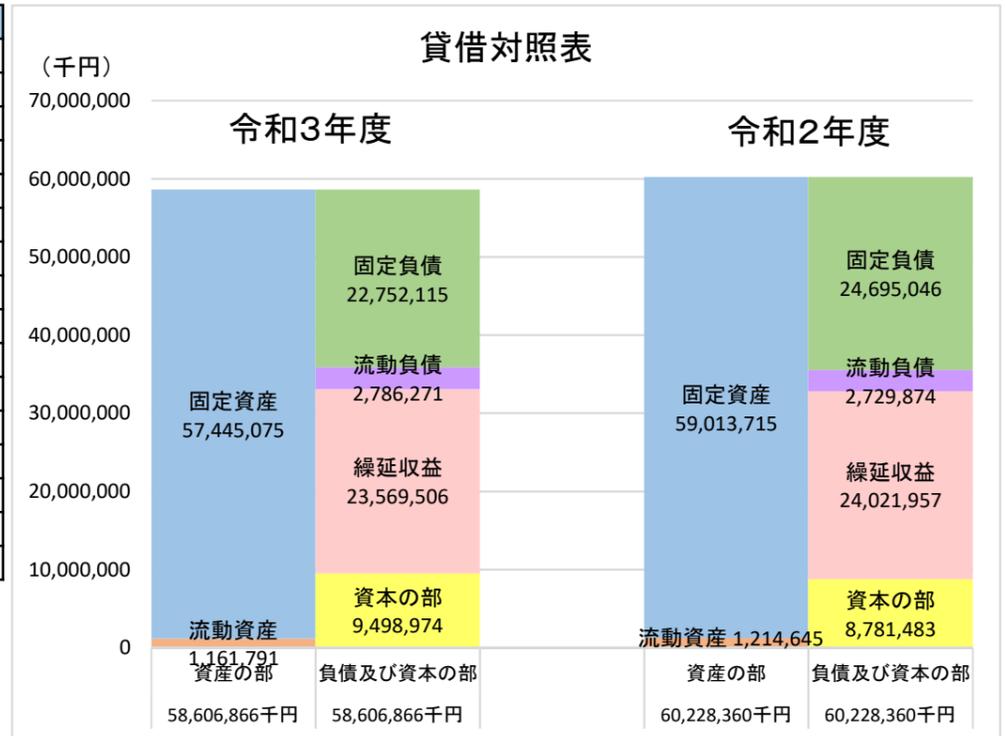
	令和3年度	令和2年度	増減
一般会計繰入金合計	1,908,079	1,992,889	△84,810
収益的収入	1,665,280	1,755,216	△89,936
資本的収入	242,799	237,673	5,126

※1,665,280 = 営業収益1,829 + 営業外収益1,663,451

4 予定貸借対照表 (予算書 54~55ページ)

財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。  
(千円)

	令和3年度	令和2年度	増減
資産	58,606,866	60,228,360	△ 1,621,494
固定資産	57,445,075	59,013,715	△ 1,568,640
流動資産	1,161,791	1,214,645	△ 52,854
うち現金	1,029,656	1,094,825	△ 65,169
負債	49,107,892	51,446,877	△ 2,338,985
固定負債	22,752,115	24,695,046	△ 1,942,931
うち企業債	22,752,115	24,695,046	△ 1,942,931
流動負債	2,786,271	2,729,874	56,397
うち企業債	2,499,601	2,443,176	56,425
繰延収益	23,569,506	24,021,957	△ 452,451
資本	9,498,974	8,781,483	717,491
資本金	7,856,073	7,146,173	709,900
剰余金	1,642,901	1,635,310	7,591
資本剰余金	397,448	397,448	0
利益剰余金	1,245,453	1,237,862	7,591
負債+資本 計	58,606,866	60,228,360	△ 1,621,494



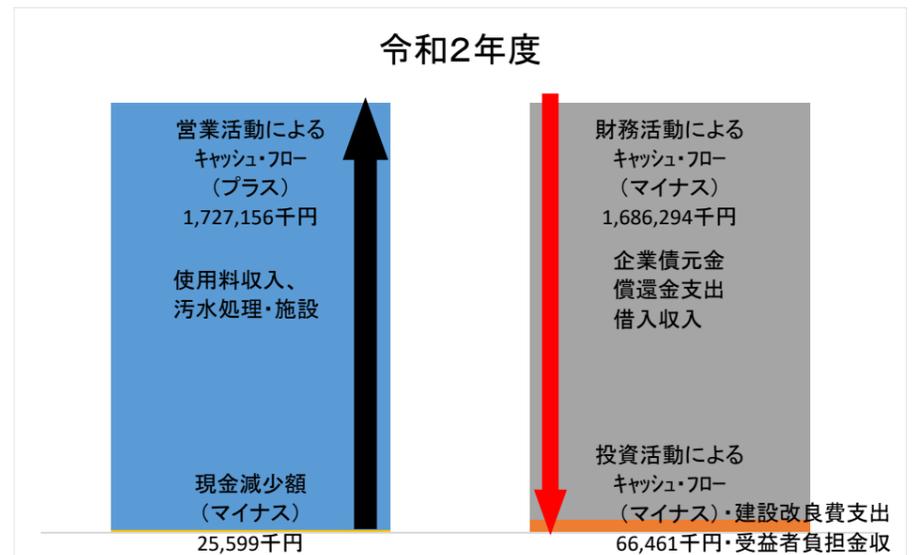
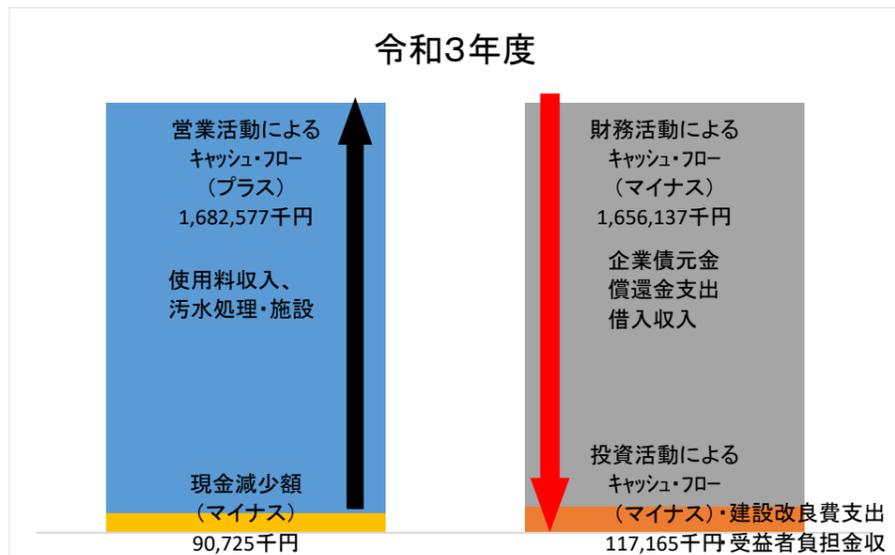
企業債の償還額が借入額を大きく上回るため、企業債残高は252億5,171万7千円となり、18億9,893万6千円減少する見込みです。また、企業債残高が負債合計の51.4%を占めています。

5 予定キャッシュ・フロー計算書 (予算書 42ページ)

1年間の現金収入や現金支出を「営業活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。営業CFでは、主たる営業活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。投資CFでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常は、マイナスとなります。財務CFでは、資金調達や企業債償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合にマイナス、借り入れた場合にはプラスとなります。  
(千円)

	令和3年度	令和2年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,682,577	1,727,156	△ 44,579
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 117,165	△ 66,461	△ 50,704
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,656,137	△ 1,686,294	30,157
現金増減額	△ 90,725	△ 25,599	△ 65,126
現金期首残高	1,120,381	1,120,424	△ 43
現金期末残高	1,029,656	1,094,825	△ 65,169

営業活動による現金収入が16億8,257万7千円で、順調な経営状況を見込みます。投資活動による現金支出は1億1,716万5千円で、犀川安曇野流域下水道事業にかかる建設負担金等を支出します。財務活動による現金支出は16億5,613万7千円で、企業債の償還金を支出します。現金の期末残高は、10億2,965万6千円となる見込みです。



6 企業債

	令和3年度	令和2年度	増減
借入額	553,800	480,900	72,900
うち資本費平準化債	400,000	362,100	37,900
企業債元金償還額	2,452,736	2,390,637	62,099
企業債利息償還額	494,355	544,564	△ 50,209
企業債年度末残高	25,251,717	27,150,653	△ 1,898,936

令和3年度は、下水道事業債1億5,380万円と、資本費平準化債4億円の借入を予定しています。また、24億5,273万6千円の元金償還を予定しており、年度末の企業債残高は、252億5,171万7千円となる見込みです。

